

# あそぶ・まなぶ・語る



周防大島町総合体育館陸上競技場 / 日本ハワイ移民資料館  
八幡生涯学習のむら / 宮本常一記念館

第54号  
2026年5月



周防大島町総合体育館

青少年の健全育成と地域の活性化を目的として、「第11回サザン・セト大島周防大島町長杯 高校サッカーフェスティバル」を、令和8年1月10日・11日・12日の3日間にわたり開催いたしました。



本大会は、選手たちの技術向上はもちろん、チーム同士の交流や友情を深める場として開催しており、中国・九州地区から強豪校が集結。期間中は各会場で白熱した試合が繰り広げられ、大きな盛り上がりを見せました。その中で大会を制したのは、学校法人奥田学園創成館高等学校（長崎県）。決勝では、九州国際大学付属高等学校（福岡県）との激しい攻防の末、PK戦

を制し、見事二連覇を達成しました。前チームから間もない新チームながらも、その実力を十分に発揮し、今後のさらなる活躍が期待されます。

準優勝の九州国際大学付属高等学校は、負傷者を抱えながらも限られたメンバーで最後まで戦い抜き、粘り強いプレーで大会を大いに盛り上げました。

## ■大会結果

- 優勝** 学校法人奥田学園創成館高等学校（長崎県）
- 準優勝** 九州国際大学付属高等学校（福岡県）
- 第3位** 広島県瀬戸内高等学校（広島県）
- 第4位** 檜蔭学園聖光高等学校（山口県）
- 第5位** 学校法人大分高等学校（大分県）
- 第6位** おかやま山陽高等学校（岡山県）
- 第7位** 島根県立大社高等学校（島根県）
- 第8位** 鳥取城北高等学校（鳥取県）

## ■Global Islandリーグ

また、1月11日・12日には、大島商船高等専門学校グラウンドにて【Global Islandリーグ】も開催されました。寒空の中でも白熱した試合が続く中、山口県立光高等学校（山口県）が見事優勝を果たしました。

本大会の開催にあたり、ご参加いただいた

た各チームの皆さまをはじめ、関係者の皆さま、そして地域の皆さまのご理解とご協力により、無事に大会を終えることができましたことを心より御礼申し上げます。

今後も、周防大島町のスポーツ振興と地域のにぎわい創出に努めてまいります。引き続き、温かいご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。

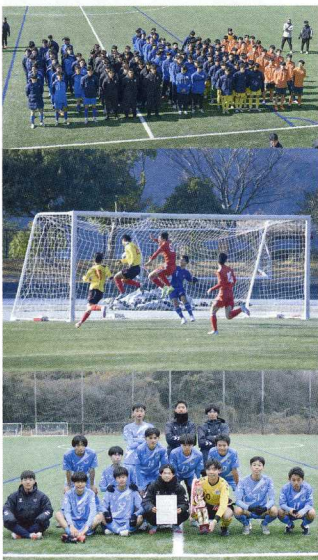
## ■次回開催予定

3日間にわたり熱き戦いが再び！強豪校が激突！瀬戸内の潮風にのせて、若き才能が躍動します。皆様のご来場を、心よりお待ちしております！

## 【日程】

令和9年1月9～11日

【会場】  
長浦スポーツ海浜スクエア  
周防大島町陸上競技場  
大島商船高等専門学校グラウンド  
※入場無料





久賀のなむでん踊りは、田植え後に行われてきた虫送りの行事です。なむでん踊りでは稲田の中で討たれた平家の武将斎藤実盛が稲を恨み虫となつて害をなすという伝承にちなみ、実盛の人形を先頭に町内各所を踊りまわり稲の害虫や病を人形に移し、最後に海に流して豊作を祈りました。

虫送りは、かつては周防大島でも各地で見られた行事でしたが、農業の普及や水田の減少などで次第に行われなくなりました。久賀のなむでん踊りも虫送りとしての意味はうすれ、みかんをはじめ様々な農作物の虫除けばかりでなく、昭和23

(1948)年の大島郡一周の省営バス運行実現や昭和46(1971)年8月2日の大島大橋架橋起工式での披露と、災厄をはらうめでたい招福の踊りとしての性格をおびていきます。しかし、久屋寺での供養や鉦や太鼓を打ち鳴らしての踊り、海岸での施餓鬼といった行事の構成は江戸時代に記録された形を伝え、貴重な民俗芸能として山口県無形民俗文化財に指定されています。

時代の変化や行事の担い手の高齢化、人口減少などから何度も休止を余儀なくされたなむでん踊りですが現在では保存会の尽力で子どもたちへの伝承にも取り組み、参加者も増えつつあります。今年、大島大橋は架橋50年を迎えます。なむでん踊りを見ながら大島大橋とともに歩んだ年月に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。(古賀瑞枝)

令和8年度  
**陶芸教室のお誘い**  
八幡生涯学習のむら

この春は新しいチャレンジとして陶芸を初めてみませんか。八幡生涯学習のむらの陶芸の館で



は毎月第一・第三の水・木・土曜日に陶芸教室を開催しています。受講生の作品は育てている植物のために自分でデザインした植木鉢、好みの絵付けの食器や花入れ、オブジェと様々。ほかの受講生の作品を見るのも新たなアイデアのヒントになって楽しみます。年に一度の作品展へおけるの作品作りも励みになります。講座では先生が丁寧に指導して下さるので初心者の方も安心です。一日体験コースもありますので、まずはお試しからという方もお気軽にご参加ください。初心者の方には基礎から学べる入門講座がおすすめです。

◆ **本格講座**

- ◆ **【開講日】** 毎月第一、三の①水曜コース ②木曜コース ③土曜コース
- ※時間…いずれも13時～15時
- ④水曜夜コース 時間…19時～21時
- ◆ **【受講料】** 2000円/月(年間一括払い20000円)、材料費…粘土代1kgにつき3000円

◆ **入門講座(初心者向け)**

陶芸の基本技術を習得するコース。本格講座の4つの開講日のいずれかに連続3ヶ月受講。  
※受講料は本格講座と同じ。本格講座、入門講座ともに入会金1500円が必要です。

◆ **一日体験コース**

(2日前までにご予約ください)

- ①陶芸Ⅰ(手びねり) 大人/2000円 中学生以下/1500円
  - ②陶芸Ⅱ(電動ロクロ) 大人/2500円 中学生以下/2000円
  - ③絵付けコース 1000円
- ※マグカップ、湯のみ、ご飯茶碗、皿 から選択

# 渋谷で辿るハワイ日系移民の歩み

— 日本ハワイ移民資料館の貴重な資料とともに —

本年1月に東京都渋谷区の企画展に本館の所蔵資料の貸出協力をしました。以下、渋谷区からご報告いただいた展示の概略を掲載します。

本年1月6日から22日までの期間、渋谷区主催により、東京都渋谷区役所を会場に、企画展「渋谷で辿るハワイ日系移民の歩み」を開催しました。

本展は、渋谷区とホノルル市との姉妹都市交流の一環として、ハワイに渡った日系移民の歴史や暮らし、文化について広く知っていただくことを目的に実施したものです。若者をはじめ、国内外から多くの人々が集う渋谷という発信力のある街で開催することで、これまで移民の歴史に触れる機会の少なかった方々にも関心を持っていただく契機となりました。

展示では、日本ハワイ移民資料館をはじめとする関係機関のご協力のもと、当時実際に使われていた農具

や教科書、生活用品など、貴重な実物資料をお借りして紹介しました。文字や写真だけでは伝わりにくい移民一人ひとりの生活の重みや、異国の地で懸命に生き抜いた人々の息遣いを、来場者が身近に感じられる構



東京都渋谷区役所内の企画展会場



【上】 役所内の企画展示会場

【下】 貸出資料のケース展示

【QRコード】

渋谷区とホノルルの姉妹都市交流に関してはこちらから



ウム渋谷および、こども科学センター・ハチラボと連携し、複数の施設を活用した一体的な企画として実施しました。プラネタリウムではハワイの星空や文化を切り口とした特別投影を行い、ハチラボでは子ども向けにハワイと科学をテーマとした展示を展開するなど、世代や関心に応じて多角的に移民やハワイへの理解を深める機会を創出しました。

成としました。また、資料館館長のインタビュ映像や移民の歩みをとどめる映像展示も行い、歴史の背景や時代の流れを立体的に理解できる内容となりました。さらに本展は、コスモプラネタリ

会期中は区内外を問わず幅広い世代の方々にご覧いただきました。アンケートや会場で寄せられた感想の中には、「ハワイには行ったことがあったが、日系移民の歴史は初めて知った」「実物資料があり、とても

説得力があった」「戦時中の日系人の葛藤を知り、考えさせられた」「展示をきっかけに、ぜひ日本ハワイ移民資料館を訪れてみたいと思った」といった声が多く寄せられました。移民の歴史が過去の出来事ではなく、現代の多文化共生や国際理解につながるテーマであることを、来場者自身が実感されていたことが印象的でした。

本展の開催にあたり、多大なご協力をいただいた関係者の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。渋谷での展示が、ハワイと日本を結ぶ移民の歴史に新たな関心を呼び起こし、その学びが今後も各地へと広がっていくことを願っています。

(渋谷区役所国際都市交流担当一同)

このように、渋谷区の企画展に当資料館の資料を活用していただき、多くの人に日本とハワイの交流史に関心を持っていただく機会になったこと嬉しく思います。これを機として渋谷区さんとは新たな絆が生まれました。そしてほかの関係諸機関とともにさらなる繋がりが広がることを願うものであります。(井倉清水)

## 刊行

## 周防大島民俗聞き書き第1集

(宮本常一記念館調査研究報告第1冊)



このたび、宮本常一記念館では『宮本常一記念館調査研究報告』の刊行を始めました。本シリーズは、周防大島の歴史や文化、また宮本常一に関する調査研究の成果を報告し、館の内外で情報の共有と継承を図ろうとするものです。

当館が地域に根差した社会教育施設として教育普及活動に取り組むには、まず地域の資源を総合的に把握するための調査研究が不可欠です。そこで、この第1冊では「周防大島民俗聞き書き 第1集」として、令和5年度から7年度にかけて行った民俗調査の記録の一部を掲載しました。具体的には、内入・沖家室島・佐連・外人・浮島・秋・横見・西三浦・西屋代において、80～90代のお年寄りの方から継続的に話を聞き、地域の伝統的な生産活動や暮らしの全般を理解するための基礎資料といふべきものを作成しました。その際に筆者が意識した課題は大きく分けて三つあります。

一つ目は、周防大島の伝統的な農

業・漁業・諸職等の生産活動、及びそれらを取り巻く衣・食・住生活に関する目的の詰まった記録を作成することです。周防大島は自然地理の上からも、歴史的行政区分の上からも、「大島郡」という比較的まとまった地域社会を形成しており、そのなかで様々な生産活動が営まれてきました。それらを個別具体的に記録することは、島という生活環境、及びそこで培われてきた生活文化の総体と相貌を見定めるうえで欠くことのできない作業です。

二つ目は、周防大島の近現代を生活者の視点から描き出すことです。アジア・太平洋戦争の終結から80年以上が経過し、戦争体験の語り継ぎが難しくなっています。戦争による大きな社会的変動のなかで人々がどのように考え、行動していたのかを知ることは、周防大島、ひいては日本の近代そのものを描き出すことにも繋がります。

三つ目は、宮本常一記念館ならではの教育普及活動への橋渡しをする

ことです。当館では宮本が遺した文書・蔵書・写真等を保管・展示しています。加えて、宮本の意志を反映して集められた膨大な民具資料があります。それら諸資料の研究を深めるには、聞き書きという手法の援用が必要であり、また有効であると考えています。

各地で調査を進めるなかで筆者が感じたことは、島には学問を育てる土壌がとても豊かだということでした。宮本が遺した資料や旧町単位で集められた膨大な量の民具など、物質的な側面はもちろんですが、それだけでなく、地域に伝承された知識や自らの生活実践を積極的に語り継ごうとする気風が強いとも感じています。それは、地域に対する誇りや愛着、また自らが歩んできた人生に対する自信からくるものだと思います。改めて、一人一人が持つ体験や伝承が厚く貴いものであることを確認できた調査でした。

最後になりましたが、本報告を作成するにあたり、話者となって筆者にたくさんのお話を教えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。本報告が学問を進めるための資料と

して利用されるだけでなく、郷土愛を涵養し、次代を担う人材を育てるための資料としても活用されることを願っています。(板垣優河)

【販売】 宮本常一記念館

1冊 2000円

## 日本ハワイ移民資料館 今後の予定

～大島大橋50周年企画として～

## ★ハワイ移民ドキュメンタリー上映

【主催】 NPO法人NAC:j

(神奈川県・松元裕之)

【日時】 7月4日

【会場】 しまとぴあスカイセンター

## ★第2回ハワイアンキルト展

【主催】 日本ハワイ移民資料館

(指定管理者：大島国際交流協会)

【日時】 令和8年7月中旬～8月末

(休館日除く)

【会場】 日本ハワイ移民資料館

## 【内容】

● ハワイアンキルトタペストリー等

約20点を展示

● 展示作品のコンテスト開催予定

《キャシー中島の作品展あり》

【問合せ】 日本ハワイ移民資料館

0820・74・4082